

知財の広場

発明キッズを応援

特許庁・広報誌「とっきょ」には、全国の小中学生などの日本の将来を担う“発明キッズ”が発明した生活に根ざしたアイデアについて、特許庁等が積極的に応援・支援していることが紹介されています。

事例は、環境問題に関心を持つ当時小学3年生が発明した「繰り返し使えるストロー」の内容です。特許取得するため、サポートする保護者が、INPIT 山口県知財総合支援窓口の支援を得て、特許申請の明細書を作るためメカニズムを言語化する過程で、製品の多様な可能性や、経営する老舗の醸造会社の事業への新しい気づきやヒントを発見していったそうです。

発明したキッズを回りの大人がサポートをして、“アイデアを「知財」に変えて、社会につなげる物語”となっています。

下記図は、発明「繰り返し使えるストロー」の特許取得・商品化の経緯の概略です。詳しい内容は最下段のURLにてご覧ください。



出典：特許庁・広報誌「とっきょ」2024年7月30日発行号
URL/<https://www.jpo.go.jp/news/koho/kohoshi/index.html>

INPIT 滋賀県知財総合支援窓口
支援担当者 吉井 映滋